

< 曲目解説 >

デイヴェルテイメント 第2番

モーツァルト

1771年末に第2回イタリア旅行から戻ったモーツァルトの手から3曲の弦のみのためのデイヴェルテイメントが生まれた。成立事情は全く知られていない。又これらの曲がどういう編成のために書かれたものかがはっきりしていない。しかし、十分に我々の耳を楽しませてくれる。デイヴェルテイメントの性格からも、そうした自由を楽しんでよい作品と考えておこう。

第2番は第1番(K136)の姉妹作。緩—急—急の3楽章構成がとられている。こうした配列はイタリアの室内楽によくみられるもの。ここではそれが次第にテンポを加速する結果となっているのが興味深い。

クラシック名曲ガイド (音楽之友社) より

ピアノ協奏曲 第1番

ショパン

「ピアノの詩人」と呼ばれるショパンはその音楽の表現手段をピアノという楽器以外には見出せなかった作曲家であるといっても過言ではないだろう。オーケストラを伴うピアノ作品はいくつか作曲しているが、2曲のピアノ協奏曲を含めて僅か6曲しかない。その殆ど全てが1830年までのショパンのポーランド時代に作曲されている。

ピアノ協奏曲第1番は1830年秋作曲され、ショパン自身の独奏で初演された。曲は三つの楽章からなり、古典的な協奏曲の形式を踏襲しているが、ピアノとオーケストラとの比重には大きな差がある。ショパンの瑞々しい情感と新鮮な感覚、さらにピアニスティックな名技性があふれており、今日の多くのピアニストのレパートリーとして重要な位置を占めていることは間違いない。

クラシック名曲ガイド (音楽之友社) より

## ソプラノ 歌曲

### 1. アヴェマリア

J.S.バッハの「平均律クラヴィア曲集」の第1巻、第1曲の「前奏曲」を伴奏に、グノーがメロディーを付けた。

アヴェ マリア  
神の恵みに 満ちたる君  
幸にあふるる君  
おみなうちに 君一人は  
イエスが母となりたまいき  
サンタ・マリア サンタ・マリア マリア  
汚れし我を 哀(アワ)れみたまえ  
生くるこの日も 死する時にも  
アーメン アーメン

### 2. 私を泣かせてください

オペラ「リナルド」から、アルチーナのアリア。  
悲しい歌詞ながら、大変美しい旋律に乗せて歌わせるヘンデルの傑作。

過酷な運命に涙し、  
自由に憧れることをお許してください。  
私の苦しみに対する憐れみだけによって  
苦悩がこの退りを打ち毀してくれますように。

### 3. ああ、愛する人の

ドナウディ歌曲の代表的な歌曲のひとつ。とても感傷的で、せつない曲。

ああ、魅惑に溢れた愛する人は失われてしまった。  
私の栄光であり誇りであった人は私の目から遠い。  
黙して語らぬ部屋で、私はいつもその人を捜し呼び求める。  
だが、捜しても無駄、呼び求めても無駄。  
そして涙は親しいものになって、  
私は涙だけで心を養っているほどだ。

#### 4.からたちの花

山田耕筰と北原白秋との交友の中から生まれた曲。

カラタチの白い花を眺めながら、ありし日の光景が次から次へと脳裏に浮かぶ。

青くて痛いとげ、畑のカラタチ垣根、金色の実、そしてカラタチのそばで泣いた思い出....

山田耕筰の体験を元にして作られた。

#### 5.この道

白秋が『からたちの花』の次に姉妹のように思い作った曲。

山田耕筰の代表曲。

#### 6.落葉松

落葉松の林全体が黄色にそまり、ぱらぱらと葉が落ちるさまが目に浮かぶ曲。

#### 7.オペラ「セビリアの理髪師」より“今の歌声は”

リンドーロの告白の歌を聴いたロジーナは、心の高鳴りを覚え、返事を書いた手紙を手に有名なアリアを歌う。

今の歌声は、リンドーロだわ。

私は心が高鳴ります。リンドーロは私のもの。

あのやきもちやきの後見人はきっと拒むけど

勝ってみせるわ、策を持っても。

#### 8.オペラ「椿姫」より“花から花へ”

高級娼婦ヴィオレッタは純情な青年の求愛に心ときめかせる。

しかし、現実に戻された彼女は享樂的な人生を楽しむのよと自分に言い聞かせる。

アルフレードとの恋愛に乱れる心を表すコロラトゥーラの華やかな曲。